



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社

コード番号 2875 URL <http://www.maruchan.co.jp>

代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 今村 将也

問合せ先責任者 （役職名） 経理部長 （氏名） 松本 千代子 TEL 03-3458-5246

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	93,249	2.4	6,399	△11.3	6,938	△9.7	4,644	△14.0
29年3月期第1四半期	91,073	△1.2	7,212	17.4	7,688	17.5	5,398	29.3

（注）包括利益 30年3月期第1四半期 5,487百万円（－％） 29年3月期第1四半期 △2,101百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	45.48	—
29年3月期第1四半期	52.86	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	360,331	284,141	75.9
29年3月期	361,074	281,795	75.1

（参考）自己資本 30年3月期第1四半期 273,452百万円 29年3月期 271,198百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
30年3月期	—				
30年3月期（予想）		30.00	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	193,000	6.0	13,500	0.4	14,500	2.0	9,500	△3.4	93.02
通期	400,000	4.5	30,000	1.7	31,500	1.1	21,400	2.7	209.54

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	110,881,044株	29年3月期	110,881,044株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	8,751,549株	29年3月期	8,751,549株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	102,129,495株	29年3月期1Q	102,129,622株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調が続いております。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は93,249百万円（前年同四半期比2.4%増）、営業利益は6,399百万円（前年同四半期比11.3%減）、経常利益は6,938百万円（前年同四半期比9.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,644百万円（前年同四半期比14.0%減）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間の為替換算レートは、111.96円/米ドル（前第1四半期連結累計期間は、102.96円/米ドル）であります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

水産食品事業は、漁獲量減少や国内市場の競争激化により環境が厳しさを増す中、鮭鱒事業ではコンビニエンスストア、量販店への営業を強化し増収となりました。魚卵事業では顧客のニーズに沿った製品を販売し好調に推移しました。その結果、売上高は8,221百万円（前年同四半期比4.3%増）、セグメント利益は143百万円（前年同四半期比64.5%増）となりました。

海外即席麺事業は、米国では大手量販店との連携強化等、積極的な販売活動に取り組みましたが、即席麺市場の厳しい販売環境が継続しており減収となりました。メキシコでは、現地通貨安が改善傾向にある中、消費者キャンペーンや袋麺の販売強化を積極的に行い増収となりました。その結果、売上高は現地通貨ベースでは減収となりましたが、円安の影響により売上高は16,903百万円（前年同四半期比6.3%増）となりました。セグメント利益は、人件費や運賃の増加等により、2,419百万円（前年同四半期比6.7%減）となりました。

国内即席麺事業は、カップ麺では主力商品の「赤いきつねうどん」「緑のためき天そば」「麺づくり」「ごつ盛り」等の拡販に努める中、平成29年3月に新発売した「MARUCHAN QTTA」が上乘せとなり、カップ麺全体で増収となりました。袋麺は、市場全体が厳しい環境の中、「マルちゃん正麺」シリーズでは新フレーバーを投入するなど需要喚起に努めましたが、減収となりました。その結果、売上高は28,573百万円（前年同四半期比0.3%減）となりました。セグメント利益は、主に「MARUCHAN QTTA」に関連した宣伝費や平成28年8月に竣工した関西工場の稼働に伴う減価償却費の増加等により、1,254百万円（前年同四半期比49.1%減）となりました。

低温食品事業は、生麺類では主力商品の「マルちゃん焼そば3人前」シリーズが堅調に推移したほか、平成29年2月に新発売した「極み太麺焼そば」やレンジ調理商品の「レンジで麺上手」シリーズが上乘せとなり、生麺全体で増収となりました。チルド・冷凍食品類では、「マルちゃん焼そば」ブランドを冠した「マルちゃん焼そばシェウマイ」や、有名店とコラボレーションした市販用冷凍麺の新商品「珍々亭油そば」が好調に推移しました。その結果、売上高は17,806百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。セグメント利益は、主力商品の伸張による利益の増加、原材料価格の低下により、1,482百万円（前年同四半期比27.3%増）となりました。

加工食品事業は、米飯は主力の無菌米飯に加え、玄米ごはんや釜飯等のレトルト米飯が好調に推移し、増収となりました。フリーズドライ製品は、コンビニエンスストアへの導入が順調に進みました。その結果、売上高は5,041百万円（前年同四半期比2.8%増）となりました。セグメント利益は、原料米価格が上昇したほか、新工場建設に伴う固定費の増加等により、72百万円（前年同四半期比61.6%減）となりました。

冷蔵事業は、積極的な営業活動により新規顧客及び既存顧客の保管・配送取扱が増加しました。その結果、売上高は4,426百万円（前年同四半期比4.6%増）となりました。セグメント利益は、売上増に加え、業務の見直しや省エネ活動に積極的に取り組み、人件費や動力費等が減少したことにより、602百万円（前年同四半期比21.0%増）となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は12,276百万円（前年同四半期比2.7%増）、セグメント利益は549百万円（前年同四半期比39.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は743百万円減少し360,331百万円、純資産は2,346百万円増加し284,141百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に現金及び預金、建設仮勘定は増加しましたが、有価証券が減少しました。負債は、主に未払費用、未払法人税等が減少しました。純資産は、主に利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加しました。

この結果、自己資本比率は75.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に関する事項につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績が想定していた範囲内で推移しているため、平成29年5月12日に発表しました見通しを変更しておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	78,209	79,471
受取手形及び売掛金	50,315	49,852
有価証券	43,000	40,000
商品及び製品	15,678	15,732
仕掛品	409	323
原材料及び貯蔵品	5,307	5,502
繰延税金資産	1,825	1,324
その他	3,062	3,204
貸倒引当金	△493	△498
流動資産合計	197,314	194,911
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	59,557	59,139
機械装置及び運搬具（純額）	28,347	27,886
土地	35,336	35,327
リース資産（純額）	2,970	3,278
建設仮勘定	1,786	3,158
その他（純額）	1,356	1,305
有形固定資産合計	129,355	130,095
無形固定資産		
その他	2,428	2,223
無形固定資産合計	2,428	2,223
投資その他の資産		
投資有価証券	29,689	30,889
繰延税金資産	1,469	1,425
退職給付に係る資産	73	68
その他	1,074	1,047
貸倒引当金	△331	△331
投資その他の資産合計	31,976	33,099
固定資産合計	163,760	165,419
資産合計	361,074	360,331

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,339	24,601
短期借入金	267	277
リース債務	243	237
未払費用	19,713	17,612
未払法人税等	3,068	1,448
繰延税金負債	2	2
役員賞与引当金	196	13
固定資産撤去費用引当金	179	160
その他	2,208	2,504
流動負債合計	50,219	46,858
固定負債		
リース債務	3,955	3,897
繰延税金負債	4,021	4,328
役員退職慰労引当金	213	189
退職給付に係る負債	18,846	18,905
資産除去債務	229	217
その他	1,794	1,792
固定負債合計	29,060	29,331
負債合計	79,279	76,189
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,942	22,942
利益剰余金	228,277	229,858
自己株式	△8,225	△8,225
株主資本合計	261,963	263,544
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,738	9,515
繰延ヘッジ損益	△5	△6
為替換算調整勘定	2,627	2,455
退職給付に係る調整累計額	△2,124	△2,056
その他の包括利益累計額合計	9,235	9,907
非支配株主持分	10,596	10,689
純資産合計	281,795	284,141
負債純資産合計	361,074	360,331

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
売上高	91,073	93,249
売上原価	56,652	58,378
売上総利益	34,421	34,870
販売費及び一般管理費	27,208	28,471
営業利益	7,212	6,399
営業外収益		
受取利息	159	267
受取配当金	215	223
持分法による投資利益	16	12
賃貸収入	84	83
雑収入	165	188
営業外収益合計	642	775
営業外費用		
支払利息	67	65
賃貸収入原価	15	15
支払補償費	24	100
為替差損	22	13
雑損失	36	40
営業外費用合計	166	235
経常利益	7,688	6,938
特別利益		
固定資産売却益	7	14
特別利益合計	7	14
特別損失		
固定資産除売却損	17	90
投資有価証券評価損	1	—
その他	—	6
特別損失合計	18	96
税金等調整前四半期純利益	7,676	6,856
法人税、住民税及び事業税	1,874	1,653
法人税等調整額	291	466
法人税等合計	2,165	2,120
四半期純利益	5,511	4,736
非支配株主に帰属する四半期純利益	112	91
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,398	4,644

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	5,511	4,736
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△381	827
繰延ヘッジ損益	△44	△0
為替換算調整勘定	△7,268	△171
退職給付に係る調整額	79	73
持分法適用会社に対する持分相当額	2	21
その他の包括利益合計	△7,612	750
四半期包括利益	△2,101	5,487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,179	5,317
非支配株主に係る四半期包括利益	78	170

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	7,884	15,905	28,646	17,553	4,904	4,231	79,126	11,947	91,073	—	91,073
セグメント間の内部 売上高又は振替高	231	—	—	—	—	231	462	114	576	△576	—
計	8,115	15,905	28,646	17,553	4,904	4,462	79,588	12,061	91,650	△576	91,073
セグメント利益	87	2,592	2,467	1,163	188	497	6,997	393	7,390	△178	7,212

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益の調整額△178百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△319百万円、棚卸資産の調整額40百万円及びその他の調整額101百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に海外子会社からのノウハウ料の相殺消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	8,221	16,903	28,573	17,806	5,041	4,426	80,972	12,276	93,249	—	93,249
セグメント間の内部 売上高又は振替高	281	—	—	—	—	219	500	71	571	△571	—
計	8,502	16,903	28,573	17,806	5,041	4,645	81,473	12,347	93,821	△571	93,249
セグメント利益	143	2,419	1,254	1,482	72	602	5,974	549	6,524	△124	6,399

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益の調整額△124百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△277百万円、棚卸資産の調整額48百万円及びその他の調整額104百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に海外子会社からのノウハウ料の相殺消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。